

研究調査報告書

教科名（ 道 徳 ）

項 目	新しい道徳 （2・東書）
教育基本法、学校教育法の下での学習指導要領の教科の目標との関わり	<p>＜道徳的諸価値についての理解を深めていくようにする工夫＞</p> <p>○主体的に学習に取り組めるように学習のテーマを明示したり、評価にも生かせる振り返りのページや各教科等における道徳教育との関連を取り上げたりしている。人間関係を築くことを重視し、人との関わりの中で考えることができる学習活動のページを全学年に2か所ずつ掲載している。</p> <p>＜自己の生き方への考えを深めていくことができるようにする工夫＞</p> <p>○巻頭にオリエンテーションのページがあり、児童が問題意識をもって取り組み、自己を見つめられるように示している。教材の冒頭と末尾に考えるポイントを示し、3年生以上の教材の中には「問題を見つけて考える」視点として、考えるステップを示している。</p> <p>＜道徳性を育成するための工夫＞</p> <p>○児童が自らの成長を実感できるよう、学習活動での発言や考えたことをまとめる「学習のふり返り」や「これからもかがやく自分に」を設けている。また、日常生活において道徳で学習したことを実践できるよう、3年生以上に「つながる・広がる」を掲載している。</p>
特色	<p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</p> <p>○「いじめ問題」を重点項目として、全学年に取り入れている。二つの教材を組み合わせた「ユニット形式」となっている。</p> <p>○各学年に情報モラルを扱った教材を配置している。特に、携帯電話については、4年生から6年生まで異なる視点で扱っている。</p> <p>＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞</p> <p>○「生命の尊さ」を重点項目として各学年3教材を掲載し、低学年は自分に関わる命、中学年は家族を中心とした命の連続性、高学年は戦争や国際親善を題材に取り上げている。</p> <p>○4年生以上で、スポーツ界で活躍する人物を題材にした「生きる喜びや勇気」を与える教材を掲載している。</p> <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</p> <p>○学習の手引きとして、「とびらページ・考えるポイント・考えるステップ」がある。また、「学習のふり返り」で書くことを通して道徳的価値の理解を深めるようにしている。</p> <p>○学習活動のページ「出会う・ふれ合う」を設け、他人とのコミュニケーションを通して、道徳的価値について考えることができるようにしている。</p>
資料	<p>○年間行事や体験活動等の時期を考慮した教材配置をしている。アニメを基にした教材がある。</p> <p>○大きな絵や写真を掲載している。絵に関しては必要以上に色を多用することを控えた配慮をしている。</p>
表記表現	<p>○教材ごとに学習指導要領の四つの視点をマークで示している。四つの視点と内容項目ごとに分類して示している。</p> <p>○1年生は分かち書き、文節改行をしている。カタカナにルビを付している。数字についてのみ漢字を用いて、教材の初出にルビを付している。漢字は当該学年の前学年までの配当漢字を使用している。難解な語や必要な情報を脚注で解説している。</p>
総括	<p>○全学年に学習活動のページを2か所ずつ掲載している。教材ごとに学習のテーマを明示したり、振り返りのページを設けたりしている。また、「出会う・ふれ合う」では、コミュニケーション活動を通して、道徳的価値について考えることができるようにしている。年間行事や体験活動等の時期を考慮した教材配置をしている。また、資料の中には、アニメのキャラクターや写真や絵を大きく掲載している。</p>

項 目	かがやけ みらい 小学校道徳 （11・学図）
<p>教育基本法、 学校教育法の下 の学習指導要領 の教科の目標との 関わり</p>	<p>＜道徳的諸価値についての理解を深めていくようにする工夫＞ ○「読みもの」・「活動」の2冊で構成されている。「読みもの」は、巻頭に主題を記載し、学習のねらいを明示している。「活動」は、項目ごとに教材を配置して、発問を掲載し、考えを深める活動を通して道徳的価値に迫ると共に実践につなげた記録をポートフォリオとすることができる。各項目の最後には、特設ページとして道徳的価値に迫る焦点化した発問も掲載している。</p> <p>＜自己の生き方への考えを深めていくことができるようにする工夫＞ ○巻頭にオリエンテーションのページがあり、児童が問題意識をもって、主体的に学習に取り組むことができるようにしている。別冊の「活動」では内容項目でページ構成するとともに多面的・多角的な考えがもてるように様々な活動を設定し、自己を見つめ、自己の生き方についての考えをより深められるようにしている。</p> <p>＜道徳性を育成するための工夫＞ ○「活動」で、自らを振り返り、見つめ直す発問を入れることで、道徳的価値に迫り、今後に生かす態度を養うことができるようにしている。また、道徳的価値をより実践的なものにするため、道徳的諸価値を見付け、広げるページを「活動」特設ページとして設けている。</p>
<p>特色</p> <p>内容</p> <p>資料</p> <p>表記表現</p>	<p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞ ○全学年を通して「生命の尊さ」を重点項目としている。特に、6年生では、教科書全体を通していじめに正面から向き合うための心を育てる構成となっている。 ○情報モラルに関する様々な生活場面を教材で取り上げるとともに、コラムでは、情報の受け手・発信者としての心構えを取り上げている。</p> <p>＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞ ○「生命の尊さ」を重点項目として各学年3教材掲載し、低学年は身近な命に触れる、中学年は命の連続性に気付く、高学年は極限まで努力する人々の姿を取り上げている。 ○2年生以上の全ての学年で、スポーツ界で活躍する人物や偉人を題材とした生きる喜びや勇気を与える教材を掲載している。</p> <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○道徳ノートとしての「活動」は内容項目ごとになっており、同じ内容項目の学習をすぐに思い出したり、内容項目ごとの自分の成長を振り返ったりできるようにしている。 ○「活動」は、「考えよう」「見つめよう」などのマークで分類されている。問題解決的な学習、体験的な学習など多様な道徳学習を促す構成にしている。</p> <p>○教材と組み合わせて活用する特設ページがある。また、スポーツを題材とした教材やアニメを基にした教材がある。 ○イラストや写真を大きく掲載している。多様な画風のイラストを掲載している。</p> <p>○教材ごとに学習指導要領の四つの視点をマークで示している。目次は四つの視点の内容を色分けしている。索引は四つの視点と内容項目ごとに分類して示している。 ○1年生は分かち書き、文節改行をしている。学年配当漢字には全てルビを付し、配当外漢字についてはその都度ルビを付している。難解な言葉や必要な情報を教材ごと最後に解説している。</p>
<p>総括</p>	<p>○「読みもの」と「活動」の2分冊で構成している。「読みもの」は巻頭に主題と学習のねらいを明示している。「活動」は内容項目ごとになっており、自分自身の成長を振り返ることができる。また、問題解決的な学習、体験的な学習など多様な道徳学習を促す構成になっている。スポーツやアニメを基にした教材を取り上げるとともに、多様な画風のイラストや写真を大きく掲載している。</p>

項 目	小学道徳 はばたこう明日へ （17・教出）
<p>教育基本法、 学校教育法の下 の学習指導要領 の教科の目標との 関わり</p>	<p><b>&lt;道徳的諸価値についての理解を深めていくようにする工夫&gt;</b>                      ○内容項目ごとに導入時の投げ掛けを設け、学習のねらいを明確に把握させることで問題解決的な学習を展開できるようにしている。「学びの手引き」では、問題解決的な発展や主体的・対話的で深い学びに対応できる複数の発問から取捨選択できるようにしている。道徳的価値の理解を深めるための発展コーナーや、行動化を目指したコーナーも配置している。</p> <p><b>&lt;自己の生き方への考えを深めていくことができるようにする工夫&gt;</b>                      ○巻頭にオリエンテーションのページがあり、自分のことを記述させることで、問題意識をもって学習に取り組み、自己を見つめられるように示している。教材の冒頭と末尾に自己の生き方への考えを深めさせたり、物事を多面的・多角的に考えたりできるように設問を用意している。</p> <p><b>&lt;道徳性を育成するための工夫&gt;</b>                      ○全学年において、巻末に「ふり返り」のページを設け、1年間の心の変容を見取り、さらによりよく生きる意欲をもたせる工夫をしている。また、実体験を通して道徳的諸価値の理解・行動化を図るためのモラルスキルトレーニングを全学年に取り入れ、道徳的な習慣や行動が身に付けられるようにしている。</p>
<p>特 色</p>	<p><b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b>                      ○「いじめをなくす（黄）」「情報モラル（青）」「生命尊重（赤）」の3点に特に重点を置き、該当教材には、その色の大切なことのマークを付けて分かりやすく示している。                      ○アクティビティやモラルスキルトレーニングを全学年に取り入れ、体験的な学習を通して、行動化を図れるようにしている。</p> <p><b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫&gt;</b>                      ○「生命の尊さ」に重点を置き、低学年は命の大切さや誕生と成長、中学年は一生懸命に生きることの素晴らしさ、高学年は生命の連続性やかけがえのなさを取り上げている。                      ○2年生以上の全ての学年で、特に4～6年生の教材に、スポーツ界で活躍する人や偉人を題材にした生きる喜びや勇気を与える教材を掲載している。</p> <p><b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b>                      ○「道徳の時間が始まるよ」を最初に設けており、書くことを通して今の自分を見つめたり、なりたい自分を見付けたりできるようにしている。                      ○「ジャンプ」を設け、役割演技をすることによって、道徳的価値の理解を深めることを目指している。児童の予想される回答も記載し、話合いの手掛かりとしている。</p>
<p>資 料</p>	<p>○年間行事と関連させて指導ができるように教材を配置している。偉人やスポーツ選手を扱った教材がある。                      ○フェルトや人形、立体的な紙芝居風のイラスト、漫画形式を挿絵として掲載している。</p>
<p>表 記 表 現</p>	<p>○内容項目ごとに学習指導要領の四つの視点をマークで示している。目次は四つの視点を色分けして示している。索引は四つの視点と内容項目ごとに分類して示している。                      ○1年生は分かち書き、文節改行をしている。カタカナ、漢字は教材ごとに初出にルビを付している。当該学年以上の漢字には教材ごとの初出にルビを付している。難解な言葉や必要な情報を脚注で解説している。</p>
<p>総 括</p>	<p>○内容項目ごとに導入時の投げ掛けを設け、学習のねらいを明確に把握させることで問題解決的な学習を展開できるようにしている。「ジャンプ」を設け、児童に役割演技を行わせることで道徳的価値の理解を深めることを目指している。児童の予想される反応も記載し、話合いの手掛かりとしている。また、偉人やスポーツ選手を扱った教材や、挿絵のビジュアル面を充実させた教材がある。</p>

項 目	道徳 きみが いちばん ひかるとき （38・光村）
教育基本法、 学校教育法の 下の学習指導 要領の教科の 目標との関わり	<p><b>&lt;道徳的諸価値についての理解を深めていくようにする工夫&gt;</b>                      ○めあてを明示して課題を意識させることで主体的な学びを促すようにしている。また、①道徳的問題を明らかにする問い・②道徳的価値について考えを深める問い・③価値の一般化を意識した問い、の3段階構成となっている。発達の段階と教材に合わせ、登場人物への自我関与・問題解決的な学習・体験的な学習を織り交ぜている。</p> <p><b>&lt;自己の生き方への考えを深めていくことができるようにする工夫&gt;</b>                      ○巻頭に道徳の時間について示唆する詩があり、児童が問題意識をもって取り組み自己を見つめられるように示されている。教材の末尾に、教材とコラムとを組み合わせた「ユニット」が設けられ、物事を多面的・多角的に考えることや生き方について考えが深められるように配慮している。</p> <p><b>&lt;道徳性を育成するための工夫&gt;</b>                      ○「学びの記録」を学年4か所（低学年は3か所）設け、自分の成長を実感でき、自尊感情を育むよう工夫している。また、2年生以上の教材末の学習の手引きには、「つなげよう」を設けており、道徳での学びが授業でとどまることなく、他教科や日常生活における次の行動につながるようヒントを提示している。</p>
特 色	<p><b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b>                      ○「生命尊重」は、巻頭に詩を掲示している。「いじめ問題」「情報モラル」は、教材とコラムとを組み合わせた「ユニット形式」となっている。                      ○「いじめ」に結び付く教材は、学年の前半に配列されており、学級づくり、友達との関係づくりに生かせるようにしている。</p> <p><b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫&gt;</b>                      ○「生命を大切に思う心」の育成に重点を置き、各学年3教材掲載し、全学年に、同一の研究者の書き下ろし教材を掲載している。                      ○全学年で偉人を題材とした教材、中・高学年においてスポーツ界で活躍する人物を題材とした生きる喜びや勇気を与える題材を掲載している。</p> <p><b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b>                      ○教材の導入部で、児童が課題を意識できるようにするための問いが設けてあり、主体的に学びに向かうことができるようにしている。                      ○「学びの記録」に学んだことが生かされたことや自分が変わったと気付いたことを書くことで、自分を見つめたり、成長に気付いたりすることができるようにしている。</p>
資 料	<p>○読み物教材から学んだことを生かす「つなげよう」のコーナーがある。一枚絵から考える教材、先人や今活躍している人、アニメのキャラクターから学ぶ教材がある。</p> <p>○見開きに大きな写真や絵、日常で起こりがちな場面や漫画形式の挿絵を掲載している。</p>
表 記 表 現	<p>○教材ごとに学習指導要領の四つの視点をマークで示している。索引は学習指導要領の四つの視点と内容項目ごとに分類して示している。</p> <p>○1年生は分かち書き、文節改行をしている。数字についてのみ漢字を用いてルビを付している。カタカナには見開きページの初出にルビを付している。2年生以上で当該学年の配当漢字に全てルビを付している。注釈で難解な語や必要な情報を解説している。</p>
総 括	<p>○「考えよう」では、めあてや問いを明示して主体的な学びを促し、児童が課題を意識して学習ができるようにしている。「学びの記録」では、児童は自分の学びの変化や成長を振り返ることができ、教師の側からは児童の成長を見取ることができる。漫画形式、絵本、迫力のある大きな写真、一枚の絵から考える教材、先人や今、活躍している人の生き方から学ぶ教材がある。</p>

項 目	小学道徳 生きる力 （116・日文）
教育基本法、学校教育法の下での学習指導要領の教科の目標との関わり	<p>＜道徳的諸価値についての理解を深めていくようにする工夫＞</p> <p>○考えを引き出して議論を活発にするために、主題名・導入時発問・あらすじ・ねらいに迫る発問・自分を見つめ今後に生かす発問を記載した発問の流れを全教材に設けている。また、別冊の「道徳ノート」には学習内容が書き込み、指導や評価の参考になるとともに、保護者欄を設けて保護者との連携を図れるようにしている。</p> <p>＜自己の生き方への考えを深めていくことができるようにする工夫＞</p> <p>○巻頭のオリエンテーションのページと「道徳ノート」巻頭の「自分のことを書いてみよう」を活用することで児童が問題意識をもって取り組み、自己を見つめられるようにしている。教材の冒頭と末尾に考えるポイントが明示され、別冊の「道徳ノート」の記述欄では、書くことによって多面的・多角的な考えがもてるように設定している。</p> <p>＜道徳性を育成するための工夫＞</p> <p>○別冊の「道徳ノート」を活用することで、児童が自ら振り返って成長を実感でき、教師にとっても道徳性に係る成長の様子を把握できるようにしている。また道徳的行為に関する体験的な学習や問題解決的な学習の手法に適した教材には、「学習の手引き」を設け、学びの参考例を提示している。</p>
特色	<p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</p> <p>○「いじめ防止」を最も重要なテーマとして、複数の教材を配した「ユニット形式」で構成している。また、学期に1回取り扱うようにしている。</p> <p>○情報モラルについては、特に高学年において、教材と関連付けながら体験的に学ぶ「心のベンチ」を掲載している。</p> <p>＜発達段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞</p> <p>○「生命の尊さ」を重点項目として各学年2教材以上掲載し、低学年は生命の誕生や成長、中学年以上は震災や戦争等の教材を取り上げている。</p> <p>○中学年、高学年においてスポーツ界で活躍する人物や偉人を題材とした生きる喜びや勇気を与える教材を掲載している。</p> <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</p> <p>○「心のベンチ」があり、人間関係づくり、ソーシャルスキルなど体験を通して、自分の考えを広げたり、道徳的価値の理解をより深めたりできるようにしている。</p> <p>○「道徳ノート」が別冊になっており、教材ごとに書くことができるようにしている。「道徳ノート」への記述を通して、児童が自分を見つめたり、成長を実感したりすることをできるようにしている。</p>
資料	<p>○「学習の手引き」に主体的・対話的で深い学びを実現するための手法を掲載している。また、実在する著名人や漫画のキャラクターから学ぶ教材がある。</p> <p>○大きな写真、アニメ風のイラストや漫画形式の挿絵を掲載している。</p>
表記表現	<p>○教材ごとに学習指導要領の四つの視点をマークで示している。目次は四つの視点で色分けしている。索引は四つの視点と内容項目ごとに分類して示している。</p> <p>○1年生は分かち書きをしている。カタカナにルビを付している。漢字は当該学年の配当漢字までを使用し、当該学年以上の漢字の全てにルビを付している。難解な語句や必要情報を頭注で解説している。</p>
総括	<p>○「道徳ノート」には学習内容が書き込み、指導や評価の参考になる。また、保護者欄を設け、保護者との連携を図るようにしている。「心のベンチ」では、人間関係づくり、ソーシャルスキル体験を通して、自分の考えを広げたり、道徳的価値の理解を深めたりできるようにしている。漫画やアニメ風のイラスト・大きな写真が掲載され、実在する著名人を題材とする教材を取り上げている。</p>

項 目	小学道徳 ゆたかな心 （208・光文）
教育基本法、学校教育法の下での学習指導要領の教科の目標との関わり	<p>＜道徳的諸価値についての理解を深めていくようにする工夫＞</p> <p>○各教材に、主題と導入時の問いを掲示している。さらに、展開時の問い、主題に迫る問い、学んだことを生活の中で生かすための問いを各教材に記載し、考える活動を促す構成とし、授業を振り返り、活動へつなげると共に、体験する活動を示している。他教科や家庭・地域へとつながりをもたせ、広げていくためのポイントを提示している。</p> <p>＜自己の生き方への考えを深めていくことができるようにする工夫＞</p> <p>○巻頭にオリエンテーションのページがあり、児童が主体的に学ぶことができるようにしている。教材の冒頭で問題意識をもつための問い、本文の下段に物事を多面的・多角的に考えさせる問いを明示し、末尾に学んだことを日常生活に広げるための提案を示している。</p> <p>＜道徳性を育成するための工夫＞</p> <p>○巻末に自己評価シート「学びの足あと」を活用して、学習後の振り返りを行うことで、道徳性をより育み、児童自らが成長を実感できるようにしている。また発展では「広げる」として、道徳の時間で学んだことを他の教科や学校での活動、家庭生活、地域社会などへとつながりをもたせ、広げていくためのポイントを提示している。</p>
特 色	<p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</p> <p>○いじめを直接的・間接的に児童自身の問題として捉えられるような教材を選定し、全学年設置のコラムで、いじめ防止等に主体的に関わる態度を育めるようにしている。</p> <p>○「規則の尊重」「節度、節制」等の教材において情報モラルに関わる内容を扱い、情報社会で適正な活動を行うための基となる考え方や態度を考えられるようにしている。</p> <p>＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞</p> <p>○「生命の尊さ」を重点主題として各学年4教材掲載し、低学年は生きる喜び、中学年は人の命を救うために行動した人々、高学年は実在の人物の生き方を取り上げている。</p> <p>○全ての学年、特に高学年においては、多数の偉人やスポーツ界で活躍する人物を題材にした生きる喜びや勇気を与える教材を掲載している。</p> <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</p> <p>○巻末に自己評価シートとして、「学びの足あと」を設けている。授業後の心の動きなどを記入していくことで、道徳性をより育み、児童自らが成長を実感できるようにしている。</p> <p>○コラム「みんなでやってみよう」を全学年に設置し、コミュニケーション能力を高め、よりよい人間関係の構築に向けて発達の段階に応じたグループワークを提示している。</p>
資 料	<p>○同じ出来事について学年をまたいで取り上げている教材がある。スポーツ選手、著名人、先人の伝記を扱った教材や漫画、実話を基に考える教材がある。</p> <p>○「目に留まる」を意識した絵や大きい写真、漫画形式の挿絵を掲載している。</p>
表 記 表 現	<p>○教材ごとに学習指導要領の四つの視点をマークで示している。目次は四つの視点を色分けしている。索引は四つの視点と内容項目ごとに分類して示している。</p> <p>○1年生は分かち書き、文節改行をしている。カタカナにルビを付し、数字についてのみ漢字を使用しルビを付している。本文内の漢字は前学年までに学習した漢字のみを使用し、1～3年生は全ての漢字にルビを付している。難解な語句を脚注で解説している。</p>
総 括	<p>○各教材のはじめに、主題と導入時の問いを掲示している。さらに、展開時の問い、道徳的価値の理解を深めるための主題に迫る問い、学んだことを生活の中で生かすための問いを各教材に記載し、考える活動を促す構成としている。「学びの足あと」では、心の動きや学びを記入することで、児童が成長を実感できるようにしている。また、漫画、アニメやスポーツ選手、著名人、先人の伝記や実話を扱っている。</p>

研究調査報告書

教科名（ 道 徳 ）

項 目	みんなの道徳 （224・学研）
<p>教育基本法、 学校教育法の下 の学習指導要領 の教科の目標と の関わり</p>	<p><b>&lt;道徳的諸価値についての理解を深めていくようにする工夫&gt;</b>                      ○児童が自ら主体的に課題を発見し、解決する資質や能力を培うことを重視している。そのために、あえて主題名を本文に記載せず、児童の意識を大切にした構成・展開にしている。自分の生活につなげる「つなげよう」、体験型の学習を提示する「やってみよう」、関連するものを提示する「ひろげよう」がある。</p> <p><b>&lt;自己の生き方への考えを深めていくことができるようにする工夫&gt;</b>                      ○巻頭に道徳の授業の学び方を紹介するページと詩があり、併せて次ページに自分のことを記述させることで問題意識をもって取り組み、自己を見つめられるようにしている。教材の末尾と「深めよう」「つなげよう」「やってみよう」「広げよう」の学び方のページで考えを深め、自己を見つめるきっかけとなる投げ掛けをしている。</p> <p><b>&lt;道徳性を育成するための工夫&gt;</b>                      ○巻頭に自分を見つめるページ、巻末に1年間の学びを振り返るページがあり、1冊全体で1年間の自分の成長を感じられる構成になっている。また「学び方のページ」において、自己の生き方についての考えを深めさせるための道徳的行為に関する体験的な学習活動などを設けている。</p>
<p>特 色</p>	<p><b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b>                      ○いじめ問題に対応するため「いのちの教育」を最重点テーマに据え、連続複数時間扱いのユニットとしている。                      ○情報モラルに関しては、1年生で情報機器使用時の約束、4年生で情報機器使用時の注意点、5年生で学級新聞を通じた情報の扱い方などを取り上げ、全学年で対応している。</p> <p><b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫&gt;</b>                      ○「いのちの教育」を最重点テーマとして各学年3教材掲載し、低学年は「しっかり生きる」、中学年は「仲よく生きる」、高学年は「よりよく生きる」を2学年ごとの重点テーマとしている。                      ○全ての学年で偉人を、2年生以上においてはスポーツ界で活躍する人物を題材にした生きる喜びや勇気を与える教材を掲載している。</p> <p><b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b>                      ○学び方のページ「深めよう」において、問題解決的な学習の道筋を提示している。横書きで展開されており、本文と区別して自分のこととして捉えることができる。                      ○巻頭に自分を見つめるページ、巻末に1年間の学びを振り返るページがあり、1年間の自分の成長を感じたり、これからの生き方を考えたりすることができる。</p>
<p>資 料</p>	<p>○教材で学習したことを基に、考えを深め、広げるための学び方のページがある。詩を基に考える教材、世界で活躍した人物、スポーツ選手などを扱った教材がある。                      ○大きな絵や写真、漫画形式や学校生活でありそうな場面を挿絵として掲載している。</p>
<p>表 記 表 現</p>	<p>○教材ごとに学習指導要領の四つの視点をマークで示している。目次は四つの視点を色分けして示している。索引は四つの視点と内容項目ごとに分類して示している。                      ○1年生は分かち書き、文節改行をしている。カタカナと漢字にルビを付している。当該学年以降に配当されている漢字の全てにルビを付している。難解な語句は必要な情報を頭注で解説している。</p>
<p>総 括</p>	<p>○児童が自ら主体的に課題を発見し、解決する資質や能力を培うことを重視している。そのために、あえて主題名を本文に記載せず、児童の意識を大切にした構成・展開にしている。学び方のページ「深めよう」では、話合いや記述などの言語活動を通して自己の生き方についての考えを深められるようにしている。また、漫画や詩、写真、様々な分野で今活躍している人や先人など、様々な形式の教材を掲載している。</p>

項 目	小学生の道徳 （ 2 3 2 ・ 廣あかつき ）
教育基本法、学校教育法の下での学習指導要領の教科の目標との関わり	<p>＜道徳的諸価値についての理解を深めていくようにする工夫＞</p> <p>○教材・道徳ノートの2冊構成となっている。教材ごとに、主題、「考えよう 話し合おう」を設置し、学習の道筋を示したり、学習を広げたりできるようにしている。道徳ノートは、道徳的価値を明確にするために、内容項目別に構成している。また、内容項目の道徳的価値についての解説を記載している。</p> <p>＜自己の生き方への考えを深めていくことができるようにする工夫＞</p> <p>○巻頭に道徳の授業の学び方を紹介するページと詩があり、児童が問題意識をもって取り組めるように示している。教材の末尾には考えるポイントを示している。別冊の道徳ノートでは巻頭で自分のことを記述したり、価値に準じた問いに向き合わせたりすることで自己を見つめ、自己の生き方についての考えをより深めるようにしている。</p> <p>＜道徳性を育成するための工夫＞</p> <p>○道徳ノートに授業を通して感じたことや考えたことを記述したり、記述したことを振り返ったりすることで、児童が成長したり、課題や目標を見付けたりすることができるようにしている。また、本冊の「考えよう 話し合おう」の問いにより、道徳的実践意欲と態度を養うことができるようにしている。</p>
特 色	<p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</p> <p>○「生命尊重」に重点を置き、年間3時間を配当している。また、命の教育の一環として、安全教育、防犯・防災、命について考えるなどの特集ページを設けている。</p> <p>○発達の段階を考慮しながら、情報モラルについて考えることのできる教材を全学年に掲載し、さらに中・高学年では特集ページを設け、折に触れて活用できるようにしている。</p> <p>＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞</p> <p>○「生命の尊さ」を重点項目として各学年3教材掲載し、2時間連続で配置した学年もある。身近な家族や動植物の命、実在したスポーツ選手の生き方を取り上げている。</p> <p>○全ての学年において、偉人やスポーツ界で活躍する人物を題材にした生きる喜びや勇気を与える教材を掲載している。</p> <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</p> <p>○教材ごとに、学びの手掛かりとなる「考えよう 話し合おう」を配置し、児童が主体的に思考を深めたり、積極的に話し合いを進めたりできるようにしている。</p> <p>○道徳ノートに「心のしおり」があり、内容項目別に構成され、教材別に学習の自己評価をし、自己の成長を振り返ることができるようにしている。</p>
資 料	<p>○一枚の写真や漫画を基に考える教材がある。先人の伝記やさまざまなジャンルで活躍する著名人、スポーツ選手を扱った教材が掲載されている。</p> <p>○「学習を広げる」欄で、教材に関連した知識理解や人物紹介、格言や本の紹介が掲載されている。</p>
表 記 表 現	<p>○教材ごとに学習指導要領の四つの視点を色分けして示している。索引は四つの視点と内容項目ごとに分類して示している。</p> <p>○1年生は分かち書きにしている。カタカナと漢字の全てにルビを付している。2年生以上では当該学年の配当漢字を含む未習の漢字全てにルビを付している。難解な言葉や必要な情報は脚注で解説している。</p>
総 括	<p>○教材・道徳ノートの2冊構成となっている。教材ごとに、「主題」と「考えよう 話し合おう」を設置し、学習の道筋を示したり、学習を広げたりできるようにしている。さらに、道徳ノートにある「心のしおり」では、教材別に学習の自己評価をし、振り返ることができるようにしている。また、スポーツ選手や偉人の生き方から学ぶ教材があり、実在の人物には人物紹介も掲載している。格言や本の紹介を掲載している。</p>